関根 石原 制す

帯大谷

全十勝高校バドミントン 男子複は越川・加納（帯柏葉）

【池田】バドミントンの全十勝高校新人選手権大会兼道高校新人大会北北海道大会十勝地区予選会（十勝バドミントン協会、高体連十勝支部主催）の個人戦が17、18の両日、池田町総合体育館などで行われた。男子1部シングルス決勝は、関根陸（帯大谷1年）が山口吏玖（江陵2年）を2―0で下し、優勝を飾った。同ダブルス決勝は、越川京兆・加納匠組（帯柏葉2年・1年）が佐々木蓮太・林孝恒組（帯大谷1年）を2―0で破り制した。女子1部シングルス決勝は、石原聡弓（帯大谷1年）が濱下紗希（同2年）を2―0で退け、頂点に立った。同ダブルス決勝は、濱下紗希・中井優純組（帯大谷2年）が橋本風香・奥秋絵梨組（帯南商2年）に2―0で勝ち、栄冠を手にした。1、2部に延べ253人、114組が出場。1部の男女各上位5人、5組と推薦選手の男子シングルスの上山昇大（帯大谷2年）、男子ダブルスの上山昇大・関根陸組（帯大谷2年・1年）、島尻慎悟・山口吏玖組（江陵2年）は北北海道大会（来年1月16～19日・北見市）に出場する。団体戦十勝予選は12月15日に芽室町総合体育館で行われる。（内形勝也）

【個人戦男子1部シングルス決勝】帯大谷1年の関根陸は上級生を次々と破って1年生王者に輝いた

関根「一戦必勝」上級生破る

個人戦男子1部シングルスは、関根陸が上級生らを抑えて王座に輝いた。「高校に入ってからシングルスは負けが続いていたので、この辺りで勝ちたいと思っていた」と相好を崩した。

昨年までは帯一中のバドミントン部主将としてチームをけん引し、全国中体連団体戦出場の原動力となった。個人戦でも後衛を務めるダブルスで道中体連準優勝の経験もあるが、高校入学後は上級生との体力差に苦しみシングルスでは結果を残せずにいた。

ダブルスでは、エースの上山昇大（2年）とペアを組み、8月の道選手権で同高男子史上初の頂点に立った。自信を持って臨んだ9月の全十勝秋季大会個人戦シングルスだったが、決勝で島尻慎悟（江陵2年）にストレート負けを喫していた。

雪辱を誓って臨んだ今大会は「一戦必勝」の覚悟で挑み、準決勝で島尻に2―1で競り勝ち、決勝も山口吏玖を2―0で破った。相澤俊彰監督は「体力面は上級生に劣るが、ドライブ戦に強い長所がある。粘って相手のミスを誘えれば勝機はあると思っていた」と健闘をたたえた。

関根はこの半年間で身長が伸びるなど体が少しずつ大きくなっており、来年の北北海道大会に向けては体力強化のトレーニングを重ね、「一つでも多く勝って経験値を上げたい」と力を込める。また、推薦ペアとして上山と組んで出場する個人戦ダブルスは「必ず優勝する」と闘志を燃やした。

【個人戦女子1部シングルス決勝】帯大谷1年の石原聡弓は9月の秋季大会に続き2つ目のタイトルを手にした

北北海道大会に出場する個人戦男子1部シングルス推薦選手の上山（前列左）と今大会上位5位までの入賞選手

北北海道大会の出場権を得た個人戦女子1部シングルスの上位5位までの入賞選手

ネット前でもプレー積極的に　石原

○…個人戦女子1部シングルス決勝は、ここ最近の活躍が著しい成長株の石原聡弓が先輩の濱下紗希をストレートで下し、1年生女王の座を射止めた。女子は個人戦の北北海道大会の推薦選手が単複ともいない実力伯仲の中で石原が頭一つ抜け出た感がある。

石原は「最後まで声を出してマイナスなことは考えずに試合に集中し、ネット前のプレーも積極的にできた」と胸を張った。入江優監督からはピンチの場面での精神面のもろさを指摘されていたが、今大会は負けない気持ちを強く意識して臨んだ。

9月の全十勝高校秋季大会の個人戦シングルス優勝に続き二つ目のタイトルを手に入れ、勢いが本物であることを証明した。北北海道大会に向け「シングルスは相手に関係なく自分のプレーに徹してベスト4以上を狙う」と闘志をたぎらせる。

また、個人戦ダブルスでも中村来未（1年）とのペアで3位となり、北北海道大会の出場権を獲得。単複での活躍を誓っている。

北北海道大会に出場する個人戦男子1部ダブルス推薦ペアの（前列左から）上山・関根組、島尻・山口組と今大会の上位5位までの入賞ペア

北北海道大会の出場権を得た個人戦女子1部ダブルスの上位5位までの入賞ペア

【男子個人戦】◇1部シングルス▽準々決勝
山口吏玖（江陵）2―0 佐々木蓮太（帯大谷）
越川京兆（帯柏葉）2―0 藤原健太郎（帯緑陽）
島尻慎悟（江陵）2―0 小丹枝達也（江陵）
関根陸（帯大谷）2―0 宮部晃輔（帯三条）
▽7位決定戦
佐々木蓮太（帯大谷）2―0 宮部晃輔（帯三条）
藤原健太郎（帯緑陽）2―0 小丹枝達也（江陵）
▽5位決定戦
藤原 2―0 小丹枝
▽3位決定戦
関根 2―0 宮部
▽準決勝
山口 2―0 越川
関根 2―1 島尻
▽決勝
関根 2―0 山口
島尻 2―0 越川
◇1部ダブルス▽準々決勝
越川京兆・加納匠（帯柏葉）2―0 清水誠・高橋然（帯大谷）
関根陸・島尻慎悟（江陵）2―1 桐山章・塩島あたる（江陵）
佐々木蓮太・林孝恒（帯大谷）2―0 佐藤拓馬・三野琳平（帯柏葉）
▽7位決定戦
清水・高橋 2―1 佐藤・三野
宮部・石間 2―1 広尾・森
▽準決勝
越川・加納 2―0 岡田・小丹枝
桐山・塩島 2―1 岡田・小丹枝
▽3位決定戦
佐々木・林 2―0 桐山・塩島
▽決勝
越川・加納 2―0 佐々木・林
◇2部シングルス▽準決勝
栗田拳臣（音更）2―0 守田歩夢（本別）
中野裕麻（清水）2―1 兵頭良紀（帯農）
▽決勝
栗田 2―0 中野
◇2部ダブルス▽準決勝
工藤滉稀・前山要（大樹）2―0 佐々木翔馬・兵藤良紀（帯農）
岡田大希・小丹枝達也（江陵）2―0 広尾海周・森章馬（帯大谷）
桐山章・塩島あたる（江陵）2―1 宮部晃輔・石間涼雅（帯三条）
佐々木蓮太・林孝恒（帯大谷）2―0 佐藤拓馬・三野琳平（帯柏葉）
▽7位決定戦
佐藤・三野 2―1 広尾・森
▽準決勝
岡田・小丹枝 2―0 佐々木・林
桐山・塩島 2―0 岡田・小丹枝
▽3位決定戦
佐々木・林 2―1 岡田・小丹枝
▽決勝
佐々木・林 2―0 桐山・塩島
◇2部シングルス▽準決勝
小林（帯農）2―0 稲邉舞莉亜（帯三条）
長瀬あやめ・矢木花実（帯緑陽）2―1 永守優希・堤陽夏（広尾）
金春江・武部萌花（大樹）2―0 藤本妃佳里・町田結奈（音更）
▽決勝
長瀬・矢木 2―0 金・武部
人見航平・水谷泰崇（帯柏葉）2―1 栗田拳臣・安原要（音更）
▽決勝
工藤・前山 2―1 人見・水谷
【女子個人戦】◇1部シングルス▽準々決勝
石原聡弓（帯大谷）2―0 濱下紗希（帯大谷）
橋本風香（帯南商）2―1 奥秋絵梨（帯南商）
中井優純（帯大谷）2―0 濱下紗希（帯大谷）
▽7位決定戦
江畑菁（帯大谷）2―0 中村来未（帯大谷）
▽5位決定戦
原 2―0 中村
▽3位決定戦
橋本 2―1 中井
▽決勝
石原 2―0 濱下
◇1部ダブルス▽準々決勝
橋本風香・奥秋絵梨（帯南商）2―0 江畑菁・岡本野々葵（帯大谷）
石原聡弓・中村来未（帯大谷）2―1 古川実花・奥秋花梨（帯南商）
濱下紗希・中井優純（帯大谷）2―0 廣尾瑠姫・谷川実保（江陵）
▽準決勝
石原・中村 2―0 橋本・奥秋
濱下・中井 2―0 石原・中村
▽3位決定戦
石原・中村 2―1 原・広瀬
▽決勝
濱下・中井 2―0 橋本・奥秋
◇2部シングルス▽準決勝
小林彩乃（芽室）2―0 所遥花（帯三条）
稲邉舞莉亜（帯農）2―0 及川葉音（帯三条）
▽決勝
小林 2―0 稲邉
◇2部ダブルス▽準決勝
永守優希・堤陽夏（広尾）2―1 藤本妃佳里・町田結奈（音更）
長瀬あやめ・矢木花実（帯緑陽）2―0 金春江・武部萌花（大樹）
▽決勝
長瀬・矢木 2―0 金・武部

寺口（西小4年）全国準V

吟剣詩舞コン 剣舞幼年の部「緊張も練習通り」

武道としての剣武、詩舞、居合道に取り組む神刀流北海道本部（工藤正桂本部長）の西帯広教室で学ぶ寺口麒來（きら、9）＝帯広西小4年＝が、第27回日本伝統文化吟友会吟剣詩舞コンクール全国決勝大会（10月7日・札幌サンプラザホール）の剣舞幼年の部（10歳以下）で準優勝を飾った。剣舞歴3年目でつかんだ初の全国挑戦で、「緊張したけれど練習してきた通りにできた」と堂々とした演舞が評価された。

幼年の部には5人が出場。西日本の選手が派手な衣装を身に着け、化粧もしている中、4番手で登場した寺口は白黒の衣装で、化粧もしない質素ないでたち。指定吟に合わせて工藤本部長が振り付けた剣舞をミス無く披露した。

「先に演舞した人たちを見ていると絶対に負けると思った」というが、本番となると表情は引き締まり、審査員をにらみつけるように気迫があふれていた。工藤本部長は「普段の稽古でも手を抜かず、りりしさがある。大会でも元気が良く、扇の扱いもうまかった」と目を細める。成績発表で優勝者に次いで寺口の名前が読み上げられると、工藤本部長も「正直、まさかと思った」と喜びに沸いた。

寺口は兄麟也（りんや、14）＝帯二中3年＝、姉桜姫（さき、12）＝帯広西小6年＝と共に2年前に入門。月3回の稽古で舞に磨きを掛け、6月に札幌市内で行われた北海道予選会幼年の部でただ一人道代表に選出された。全国大会の前には神刀流帯広中央支部への出稽古や自宅でビデオチェックしながらの練習と、入念に準備をして臨んだ。

「刀を抜くところが好き」という寺口は、吟を通して武士や歴史物への関心も高まり、一番のお気に入りは戦国武将の「武田信玄」。

全国準優勝で剣舞への意欲もさらに強まった。「次は優勝したい」としっかりと前を見据えた。（大野篤志）

初挑戦の全国大会で気迫のこもった剣舞を披露し、見事に準優勝を飾った寺口麒來

賞状を手に笑顔を見せる寺口麒來と全国準優勝をたたえる工藤正桂北海道本部長

十勝勢の躍進に期待

スケート 苫小牧でW杯あすから

【苫小牧】スピードスケートのワールドカップ（W杯）第2戦となる苫小牧大会が23日から25日まで、苫小牧市ハイランドスポーツセンターで行われる。第1戦の帯広大会に続き、十勝勢の活躍が期待される。

帯広大会では高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）、高木美帆（日体大助手―日体大、同高出）、佐藤綾乃（高崎健大）で臨んだ女子団体追い抜き（チームパシュート）、女子マススタートの高木菜と、2月の平昌五輪で金メダルを獲得した種目で実力通りに優勝を果たした。高木美は女子1000㍍と1500㍍で2位。第2戦で頂点に立てるか注目される。辻麻希（開西病院）は500㍍で3位。調子は上向きで、白樺学園高を卒業後6シーズンを過ごした苫小牧でさらに上位を目指す。

男子短距離陣も楽しみが多い。500㍍で羽賀亮平（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）が帯広大会で2位と健闘。ディビジョンB（Bクラス）の村上右磨（村上電気）も2回目でしっかりと3位に入り、苫小牧大会の1回目はディビジョンA（Aクラス）で戦う。

山田将矢（日大―池田高出）は500㍍、1000㍍、1500㍍の3種目にAクラスで出場する。W杯初参戦だった帯広大会ではすべてBクラスで滑り、1000㍍と1500㍍はAクラスでも5位相当の好タイムをマーク。1500㍍は1分45秒66の国内最高記録を樹立した。

十勝勢以外にも小平奈緒（相澤病院）は女子500㍍で国内外で31連勝中。男子500㍍の新鋭、新濱立也（高崎健大）も1回目で3位と表彰台に立った。中・長距離の一戸誠太郎（ANA）も好調だ。

近年の国際大会では珍しい屋外リンクでの開催。リンク新記録以外の国内最高や自己ベストなどのタイム更新は簡単ではなく、記録よりも順位をめぐる熱い戦いとなりそうだ。（北雅貴）

〈第2戦日本代表選手〉
【男子】村上右磨（村上電気）長谷川翼（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）山田将矢（日大―池田高出）羽賀亮平（同―同、同高出）新濱立也（高崎健大）小田卓朗（水戸開研）藤野裕人（茨城県競技力本部）一戸誠太郎（ANA）ウイリアムソン師円（日本電産サンキョー）近藤太郎（ANAAS）土屋良輔（メモリード）大林昌仁（福井県スポーツ協会）伊藤貴裕（日大）土屋陸（日本電産サンキョー）
【女子】高木美帆（日体大助手―日体大、帯南商高出）辻麻希（開西病院）稲川くるみ（大東大―帯三条高出）高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）小野寺優奈（高崎健大―同高出）酒井寧子（茨城県競技力本部―高崎健大、同高出）小平奈緒（相澤病院）曽我こなみ（日本ハウスH&R）山田梨央（信州大）佐藤綾乃（高崎健大）阿部友香（友商）

かちまいスポーツ

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶0120-25-9410

勝毎杯アイスホッケーBプール

（21日・帯広の森アイスアリーナ）

◇1部A
ネッツトヨタ帯広 9（3―1、2―5、4―1）7 御影クラブOB
▽得点者【ネ】南3、香田2、柴田、前田、蜂屋、竹原【御】関谷3、土橋2、高川、花田
▽アシスト【ネ】香田3、蜂屋2、寛尾2、遠藤、前田【御】高川2、土橋2、花田、谷、飯嶋、関谷
▽反則【ネ】2【御】0
▽シュート数【ネ】37【御】47

◇4部A
チームイナックマ 4（0―2、1―0、3―0）2 市役所Z
▽得点者【チ】杉山2、相内、堀越【市】真壁、上野
▽アシスト【チ】相内、亀井、田中、杉山【市】後藤、甲山幸
▽反則【チ】1【市】0
▽シュート数【チ】42【市】33

◇4部B
田守自動車 5（2―1、1―1、2―1）3 新得ダックス
▽得点者【田】大石、工藤、田守将、原田、奥村【新】細川、林中、江崎
▽アシスト【田】田守将3、赤間3、菊池2、大石、工藤【新】山崎、花房
▽反則【田】0【新】0
▽シュート数【田】15【新】19

きょうの勝因

1部A ネッツトヨタ帯広・小澤野乃可マネジャー（19）
個々の力を存分に発揮し、かつ、チームワークを生かして勝利につなげることができました。

4部A チームイナックマ・FW山口綾子
きょうはフルメンバーでプレーして、勝つことができました。少ない人数ですが、次回も頑張りましょう！

4部B 田守自動車・FW奥村哲也（39）
みんなが一生懸命に頑張ったので勝てました。人数が増えてほしいです。